

会 議 録

1 会議名

令和2年度第1回上越市食料・農業・農村政策審議会

2 議題（全て公開）

- (1) 上越市食料・農業・農村基本計画の見直しに係る諮問について（報告）
- (2) 上越市食料・農業・農村基本計画の見直しに係る今後の方向性について

3 開催日時

令和2年9月30日（水） ※書面開催

4 開催場所

—

5 傍聴人の数

—

6 非公開の理由

—

7 書面会議に参加した者の氏名（敬称略）順不同

- ・委員：齊藤今朝男、丸田洋、高橋賢一、保坂一八、松野千恵、嶋谷玉実、大滝悦子、齋藤義信、大滝正秋、相澤誠一、井上智子、松野玲子、菱田守、神田和明、藤沢勝一郎、笠鳥健一、清水裕一、藤田悟、坂井真、土田志郎、伊藤亮司、小坂博成、太田和枝
- ・事務局：近藤農林水産部長、農政課 古澤課長、太田副課長、高橋係長、原主事

8 審議内容（要旨）

（1）上越市食料・農業・農村基本計画の見直しに係る諮問について（報告）

- ・上越市食料・農業・農村基本計画の見直すにあたり、審議会へ諮問を行ったことを書面にて報告。

（2）上越市食料・農業・農村基本計画の見直しに係る今後の方向性について

① 基本目標（目指す姿）について

- ・資料No.5により、基本理念にふさわしい基本目標となっているか、また設定してある基本目標の表現（言い回し）が適切かどうか、委員に意見を求める。

ア 《食料》 安全・安心な食料の安定供給

【松野玲子委員】

- ・供給のみではなく、生産という言葉もあった方がよいと感じるため、「安全・安心な食料の安定生産と供給」としてはどうか。

(回答)

- ・ここでは、基本理念の「食料」に関する基本目標とすることから、生産については「農業」に関する基本目標で記述します。

【土田会長】

- ・「高品質」という言葉を加筆し、「安全・安心な高品質食料の安定供給」にしてはどうか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本目標を「安全・安心で高品質な食料の安定供給」に修正します。

【小坂委員】

- ・基本目標を「安全・安心・良質な食料の安定供給」にしてはどうか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本目標を「安全・安心で高品質な食料の安定供給」に修正します。

イ 《食料》 消費者と食・農（生産者）とのつながりの深化

【高橋委員】

- ・水田のダム効果等、非農家は大きな恩恵を受けている。そのことをもっと行政がアピールすることにより、一般市民と農業者の考えが変わってきて、農業を守るために地産地消をしなければならないという意識になってくるのではないか。

(回答)

- ・具体的な内容については、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【松野玲子委員】

- ・主体はあくまで食・農だと思うので、「食・農（生産者）と消費者とのつながりの深化」にしてはどうか。

(回答)

- ・この基本目標には、消費者等から積極的に市内農産物を選んでもらうための施策が中心として位置付けられており、消費者が主体となっていることや、上位計画（国の基本計画）との整合を図るため、修正しないこととします。

ウ 《農業》 力強く持続可能な農業構造の実現

【高橋委員】

- ・農業では儲からない、生活できないのが現状であり、どのようにしたら生活できるまでの農業経営を実現することができるか、もっと掘り下げ、具体化していかないと難しいと思う。今のままでは従業員の雇用もできていない現状である。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、具体的な内容については、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【小坂委員】

- ・基本目標を「地域に根ざした力強く持続可能な農業構造の実現」にしてはどうか。

(回答)

- ・市の基本計画である以上、全ての基本目標が地域に根ざし、施策を展開していくこととしているため、現行の表記のままとします。

エ 《農業》 農業経営の安定・底上げにつながる生活基盤の強化

【丸田委員】

- ・この基本目標ではとりあえず維持できればいい、と受け取られかねないと感じる。基本理念にもあるように発展という可能性も十分にあると思われ、これからの農業は成長産業であると考え。よって、「底上げ」よりも「成長」というような、より可能性を感じさせる文言を入れるべきだと考える。

(回答)

- ・ご意見のとおり、「成長」とすることとし、より可能性を感じさせる表記とします。

【高橋委員】

- ・スマート農業を勘違いしている節があるのではないか。自動化や大型機械、ソフトなどは全て道具であり、計画をしっかりと立て、その道具等をどううまく使いこなす、また結果をデータ化するなどしていくことが本当のスマート農業ではないかと思う。そういうことをどう進めていくか具体案が必要である。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、具体的な内容については、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【伊藤副会長】

- ・「生産基盤の強化」と明記すると、土地改良事業だけを指すと受け取られないか。

(回答)

- ・修正はせず、誤解のないように基本施策の内容を記述するようにします。

オ 《農村》 住み続けたい・住みたい生活基盤の確保

【高橋委員】

- ・有害鳥獣対策は農業分野だけの問題ではないので、地域全体での対策が必要である。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、具体的な内容については、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【保坂委員】

- ・市町村合併後、行政サービスが悪くなり、生活基盤の弱体化の一因となっていると思われる。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きします。

【嶋谷委員】

- ・農村住民の多くは、今の土地に「住み続けたい」と思っているが、様々な事情によって住み続けられず、農村を離れざるを得ない。そのため、「住み続けたい・住みたい生活基盤の確保」よりも「住みたい・住み続けられる生活基盤の確保」の方が適切ではないかと思う。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「住みたい・住み続けられる生活基盤の確保」に修正します。

【松野玲子委員】

- ・「住みたい」ではなく、「住み続けられる」にしてはどうか。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「住みたい・住み続けられる生活基盤の確保」に修正します。

【藤田委員】

- ・この基本目標に紐付けられる施策の内容には農業生産も含まれるため、「生活基盤」の表現を「生産・生活環境」としてはどうか。また、「住みたい」と「住み続けたい」は逆にした方がよいのではないか。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「住みたい・住み続けられる生活基盤の確保」に修正します。

【土田会長】

- ・「住み続けたい」、「住みたい」と「生活基盤」のつながりがはっきりしないように思われるので、「安心して住み続けることのできる生活基盤の確保」または「安心して暮らせる生活基盤の確保」といった表現にした方がよいと思う。また、基本施策との関係で「生活基盤」がよいのか、自然環境も含めた地域的な広がりイメージさせる「生活環境」がよいのか、検討してもよいのかもしれない。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「住みたい・住み続けられる生活基盤の確保」に修正します。

【伊藤副会長】

- ・基本施策に「自然と農業が調和した魅力ある農村づくりの推進」を追加してはどうか。

(回答)

- ・農村づくりの推進のため、各基本施策に具体的な内容を記述していくため、項目は追加しないこととします。

【小坂委員】

- ・「住み続けたい・住みたい生活基盤・環境の確保」にしてはどうか。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「住みたい・住み続けられる生活基盤の確保」に修正します。

カ 《農村》 地域資源を活用した高付加価値経営や多様な主体の参画による活力の創出

【保坂委員】

- ・農村地帯における人口減少及び増加対策について、基本施策の中へ具体的に記述してほしい。

(回答)

- ・人口減少対策は農業分野に限らず、市全体の喫緊の課題であり、上越市第6次総合計画においても掲載されていることから、この基本計画では特記して記述しないこととしますが、農業分野で想定しうる施策を担い手確保、関係人口の創出などの項目で人口減少対策等の一つとして位置付け、基本計画の中で反映し審議会に諮ります。

② 基本施策について

- ・資料No.5により、基本理念及び基本目標にふさわしい基本施策となっているか、また設定してある基本施策の表現（言い回し）が適切かどうか、委員に意見を求める。

ア 持続的かつ需要に応じた計画生産の推進

【丸田委員】

- ・紐付けられている全ての基本施策において、基本目標にある「安心・安全」がどこで確保されるのかが見えてこない。施策の内容からすると、むしろ目標は「持続的な食料の安定供給」となってしまうのではないか。安全・安心が確保されれば、確かに結果として一部の基本施策は解決できるのかもしれない。では、どうやって安全・安心を確保するのかという施策が上位概念として必要に思う。

(回答)

- ・この食料分野では国の基本計画と同様に「食料の安定供給」を重要視しています。そのため、安全・安心な食料等の生産（確保）については、農業分野で記述します。

【大滝正秋委員】

- ・コロナ禍の新しい生活様式の中、需要に応じた計画生産の見通しが見つからない状況にある。国の基本計画では2025年度に45%の目標を掲げているが、それに向け、市として再度生産基盤の強化策及び水田農業策の検証と対策が必要と考える。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

イ 優良農地の維持と荒廃農地の発生防止

【鳴谷委員】

- ・優良農地の維持や荒廃農地の発生防止に関しては、これまでも取り組んでいるはずであるが、中山間地域に関しては荒廃農地が増加していることから、一步踏み込んだ施

策内容が必要ではないかと考える。高齢化が一層進み、獣害も増加する中、荒廃農地が増えることによるデメリットは何か、また上越市として現実的に守りたい農地はどのくらいの規模なのかを明らかにする必要があるのではないかと。

(回答)

- ・中山間地域の荒廃農地増加については、ご意見を踏まえて、より具体的な内容を基本計画に記述する。また、守りたい農地については、人・農地プランの実質化に向け地域での話し合いを継続する中で、守りたい農地を確保するよう進めており、規模については、新たな基本計画に指標として示す予定としています。

【相澤委員】

- ・平場では大規模基盤整備により、1～2ha 区画の水田でスマート農業等の方向性も見えるが、中山間地域の優良農地維持をどうするかが課題である。決め手は担い手がいるかないか、そして担い手が農業に取り組んでいける条件をどう作るか実際の手法を示さなければ、道はない。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、内容を検討し可能な限り基本計画に反映し審議会に諮ります。

ウ 気候変動や自然災害に強く、不測の事態でも食料の安定供給と品質確保を可能とする産地づくりの推進

【藤田委員】

- ・この表現では、不測の事態でも地域内で食料を確保するものと受け取れる。食料安全保障まで言及するのでなければ、「不測の事態でも」を削除してはどうか。

(回答)

- ・今回の新型コロナウイルス感染症を教訓として、条例にも記載のとおり日頃から感染症拡大のような不測の事態でも対応できる安定的な食料供給体制を整えておく必要があると考えるため、削除しないこととします。

エ T P P等新たな国際環境を踏まえた農業体制の強化

【嶋谷委員】

- ・基本施策の考え方に記述してある「意欲ある農業者」とは何を指すのか。認定農業者だけを指すとしたら、農家を減らすことにつながり、農業体制の強化とは言えないのではないかと。

(回答)

- ・「意欲ある農業者」とは認定農業者に限らず、積極的な農業者全てを指しています。誤解のないように基本計画に反映し審議会に諮ります。

【松野玲子委員】

- ・種苗法改正など農業を取り巻く規制が心配であるため、基本施策の内容は少し工夫してほしい。

(回答)

- ・未だ成立していない種苗法の改正については、現時点では国・県の動向を注視することとし、具体的な内容は記述しないこととします。

【土田会長】

- ・今後の検討過程で当然出てくるとは思うが、国・県との施策と一体となった形で実施することが不可避と思う。守りのための施策だけではなく、米等の輸出等を視野に入れるか検討が必要かもしれない。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に記述し審議会に諮ります。

【伊藤副会長】

- ・「T P P等」を削除した方がすっきりするのではないか。

(回答)

- ・国の基本計画でも明記されており、「T P P等」と記すことによって、新たな国際環境とはどのようなことを指しているのかイメージが湧きやすいことから、削除しないこととします。

オ 消費者と生産者とのつながりの強化

【丸田委員】

- ・触れ合うための交流だけでは、交流したときだけの点と点になってしまうのではないかと感じる。よって、点と点を結ぶためにも常日頃からの「情報発信」も必要になるのではないか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【嶋谷委員】

- ・消費者と生産者とのつながりの強化は、大変重要なことだと考える。消費者にとっては、店舗に市内産の農産物が置いてあることにより、上越市の農産物を知り、選ぶ機会となる。市外産と同じ土俵で戦えるように市が補助をする必要もあるのではないかと。

(回答)

- ・地産地消の取組などを通じて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【松野玲子委員】

- ・これからの時代、実際に体験交流等がしにくくなることも想定されるので、基本施策の中に、時代に合わせた交流について明記してほしい。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、具体的な手法については、基本計画またはアクションプランに反映し審議会に諮ります。

【藤沢委員】

- ・都市部の消費者家庭は、核家族化・共働きや単身者家庭、高齢者家庭が増えている。家庭では、物の保管場所に不自由し、冷蔵庫で保管ができ、電子レンジで温めれば食べられるものなどが好まれ、手間のかかるものは忌避される傾向にある。生産者は、消費者のニーズに沿った保存できる簡便な加工品を作る必要があるが、これは農家だけでは解決困難だと思われるので、両者を繋ぐ加工開発意欲のある人材を見つけ、育成することが急務だと思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

カ ライフステージに対応した食育の推進

【大滝正秋委員】

- ・コロナ禍での新しい生活様式において、食育の在り方を検討する必要がある。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【相澤委員】

- ・食育については特に小学生が大事と思う。特に学校畑、学校田での体験など幼い頃の体験が育むと考える。また中学生は人生の分かれ道に立つ年齢の中で、食の大切さ、大変さを考えさせる農場見学や体験等を行ってはどうか。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きし、具体的には、上越市食育推進基本計画の中で対応していきます。

【土田会長】

- ・「ライフステージに対応した食育」というのは、年齢層に応じた食育の機会や場を設定していくという理解でよいか。

(回答)

- ・ご高察の通りです。

キ 地産地消の推進

【嶋谷委員】

- ・地産地消は、大いに推進すべきだと考える。そのために、市内流通の仕組みづくりなどについての提言があってもよいのではないか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【大滝正秋委員】

- ・農業者が生産しても、地元産品に対する購買意欲が低いと売れ残り、廃棄することもある。農業者の生産拡大・品質向上はもちろん必要だが、地産地消に対する消費者の理解の醸成が必要と考える。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【松野玲子委員】

- ・給食に有機食材を推進していくことを試みてはどうか。

(回答)

- ・学校給食への有機食材の推進は重要なことと認識しておりますが、現在は使用する地場産野菜の生産量を増加させることが課題となっており、まずは生産・供給体制の強化が最優先課題であるため、ご意見としてお聞きします。

【小坂委員】

- ・基本施策の表現を「地産地消の推進と地域経済循環の確立」にしてはどうか。

(回答)

- ・地域経済循環は、地産地消の取組に限られたことではないため、修正しないこととします。

ク 食品関連事業者等との連携による環境問題への対応の強化

【丸田委員】

- ・これは「消費者とのつながり」より、食料の安定供給の方につながるように思うが、どうか。

(回答)

- ・食料の安定供給とのつながりもありますが、ここでは食品ロスの削減やフードバンクに関する観点から、食品関連事業者等とのつながりが重要と考えています。

【大滝正秋委員】

- ・食料安全保障の面からも食品ロス問題について、消費者の意識改革を進める必要がある。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【土田会長】

- ・基本施策の考え方に関し、食品の包装用プラスチック類等への対応について、検討する必要はないか。

(回答)

- ・当市では、食品の包装用プラスチック類については、既にリサイクルできるよう取り組んでいます。この計画では農業分野の視点から食品ロス削減を中心に触れることとしますが、今後、食品の包装用プラスチック類の使用抑制等の対応は関係課と検討していきます。

【伊藤副会長】

- ・環境問題と明記すると、少し幅が広すぎるイメージがあるため、「食品関連事業者等との連携」にしてはどうか。

(回答)

- ・農業分野で対応できる食品ロスの削減やフードバンクを主とした環境問題について、記述していくため、修正はしないこととします。

ケ 農家の意欲と誇りの醸成

【保坂委員】

- ・持続可能な農業構造の実現をするため、法人経営体と個人経営体、また平場と中山間地域それぞれの役割や関係構造、結び付きが必要になってくると思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、具体的な内容については、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【藤沢委員】

- ・農家所得の向上なくして、意欲や誇りの醸成や担い手の確保・育成は難と考える。上越産米は域内消費よりも多く生産されているはずであり、もっと積極的に域外消費策を講ずべきと考える。そこで、首都圏等にいる上越市出身者に故郷の米を懐かしんで食してもらうのはどうか。例えば、ふるさと納税で1万円に対し送料を含め5kgの米を送るのはどうか。上越産米が売れ、農家の所得が増えれば励みになり、市にとってもブランド品の確立に役立つとともに、域外の資金確保につながるものと思う。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きします。

【藤田委員】

- ・基本施策の内容には、根性論でなく具体的な取組を書いた方がよい。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、具体的な内容については、基本計画に記述します。

【土田会長】

- ・この項目自体は非常に重要なことだが、施策として実施するとなると相当難しいと思われる。意欲や誇りは、個人の価値観、経済条件、他者からの評価等、様々な要因に関わる主観的内容を含むため、具体的にどのような施策をイメージしたらよいのか。例えば、新たに市独自の表彰事業を行う、広報誌や新聞の地方版での上越農業を支えている農業者の紹介などか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

コ 上越市農業の魅力発信の強化

【土田会長】

- ・情報発信では、何のために情報発信し、どのような効果を期待するのか、この点を絡

めて内容を検討する必要がある。例えば、若い人材を確保するためなのか、農産物の販売先を開拓するためなのか、またどちらも含むのか。これらによって情報の内容が違ってきて、どの基本目標と紐付けるとよいのかにも影響してくるように思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

サ 担い手の確保・育成の強化

【嶋谷委員】

- ・基本施策の内容をもっと分かりやすい記述にしてほしい。また、兼業農家や小規模農家も広い意味での「担い手」として位置付ける必要があるのではないかと考える。

(回答)

- ・基本施策の内容については、分かりやすく具体的に記述する。また、ご意見を踏まえて、「担い手」を「新たな担い手等」に修正し、ここの施策で対象とする「新たな担い手等」の位置付けを記述します。

【大滝正秋委員】

- ・コロナ禍にあつて、農業に対する関心が増えてきている。しかし、独立・自立就農の場合は農地の確保、資金面、農業技術面、住宅等様々な課題がある。新規就農者にはそれらの課題等を一括指導・支援する組織が必要である。

(回答)

- ・引き続き、関係機関と連携しながら対応していきます。

【相澤委員】

- ・担い手の確保だが、地元以外で求めた場合、集落との関係がうまくいかない場合が多い。本人の責任もあるが、受入の世話人などの存在が必要と思われる。また、担い手の養成と同時に教え手の育成も必要となる。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【藤田委員】

- ・担い手の確保・育成の強化とは何をするのか。持続的な農業経営を進めるとあるので、経営継承の促進を含めてはどうか。

(回答)

- ・担い手の育成・確保については、現状において厳しい状況と認識していることから、

今まで以上に拡充する必要があることから強化としました。また、経営継承の促進については、ご意見を踏まえて、基本計画に記述します。

【土田会長】

- ・「担い手の確保・育成の強化」と「強い農業経営体の育成」は、前者に人材というキーワードを追加することで、後者との違いをより一層明確に示すようにした方がよい。例えば、前者は「担い手となる人材の確保・育成の強化」とし、人に焦点を当てた記述とする。また、「強い農業経営体の育成」は、農業経営体に焦点を当てた記述としたらどうか。また、女性就農の記述があってもよいと思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、「新たな担い手等の確保・育成の強化」に修正します。また、女性就農については、基本計画に記述します。

シ 強い農業経営体の育成

【丸田委員】

- ・農地法が改正され、出資割合による、一人の有能な経営者が複数の経営体の役員を務めることができるようになっており、経営体の維持・発展を考えていくのであれば、労働者としての農業就業者や新規就農者ではなく、経営者の育成が重要と考える。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、内容を検討し可能な限り基本計画に反映し審議会に諮ります。

【松野千恵委員】

- ・「強い」という表現よりも、「持続可能な」という表現の方がわかりやすいと思う。農業は繋いでいくことが大事だと思う。そのため、「強い」だと1人勝ちのような捉え方もできると思ったので、単語ではない方がよいかと思う。

(回答)

- ・効率的かつ安定的な農業経営ということが「強い」を意味するため、修正はせず、誤解のないように基本施策の内容を記述するようにします。

【藤田委員】

- ・「担い手の確保・育成の強化」と内容や対象が似たものとなっているため、「強い農業経営体に向けた経営体質の強化」などとしてはどうか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、違いが明確になるよう「担い手の確保・育成の強化」を「新たな

担い手等の確保・育成の強化」に修正します。

【伊藤副会長】

- ・基本目標と言葉を揃え、「力強い農業経営体」にしてはどうか。

(回答)

- ・国の基本計画においても「強い」と記されており、また他の委員からの意見を踏まえ、修正しないこととします。

ス 実質化された人・農地プランの実行と、担い手への農地集積・集約化の推進

【嶋谷委員】

- ・限られた担い手のみに農地が集約され、担いきれない状況が生まれている。担い手の育成・確保はもちろん必要であるが、それ以上に現在農業を担っている全ての農業者の減少をいかに緩やかにし、引き伸ばすことができるかも重要だと考える。全ての農業者に触れるような言い回しや考え方が必要ではないか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画の内容を検討します。

【相澤委員】

- ・人・農地プランで最も欠落しているのは、中山間地域に対して有効ではないことだと思う。担い手のいないところに、人・農地プランは何をしてくれるのか。

(回答)

- ・基本計画に記述し審議会に諮ります。

【藤田委員】

- ・「人・農地プランの実行」は「人・農地プランに基づく」としてはどうか。

(回答)

- ・人・農地プランを実行することによって、集積・集約化が進むため、修正をしないこととします。

【土田会長】

- ・ここでの「担い手」は「担い手経営体」と表記するとよいと思う。

(回答)

- ・当該基本施策は、人材に焦点を当てて、経営体との違いを明確に示すことから、修正はしないこととします。

【小坂委員】

- ・「実質化された「人・農地プラン」の実行と、担い手への農地集積・集約化の推進」にしてはどうか。

(回答)

- ・現在、「人・農地プラン」を見直し、「実質化された人・農地プラン」へと becoming ことから、人・農地プランに鍵括弧は使わないこととします。

セ 水田のフル活用による米政策の着実な推進と農業者の所得向上につなげる複合経営体制の強化

【丸田委員】

- ・基本施策の内容は、「園芸作物」だけとするのではなく「園芸作物をはじめとする高収益作物」とした方がよいのではないかと考える。目指すところは、農業者が儲かることだと考えるので、「園芸作物」と限定することには反対である。高収益作物と表記する方が、より生産者にとって現実味のあるものになると思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【保坂委員】

- ・園芸作物や畜産との複合経営を推進する。

(回答)

- ・水田フル活用の視点で記述しているため、耕畜連携の考えで基本計画に反映し審議会に諮ります。

【嶋谷委員】

- ・稲作にしても、園芸作物の栽培にしても大規模なほ場を有する平野部のことが年頭にあり、中山間地域の視点が欠けている気がする。広く、変化に富む上越市の農地の特性に合わせた考え方を示す必要がないか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【相澤委員】

- ・水田としてフル利用するにあたり、最も良い方法は飼料米等が有効だと思う。ただ補助の上に成り立つのではない飼料米の生産が必要である。また、園芸品目導入においては水田ですべきではない。昭和45年より始まった転作での大産地化は排水が条件と

なり、県内では無い。農業基盤整備での園芸品目導入2割の条件は畑地化への固定化、50 cm以上の嵩上げが必要である。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、内容を検討し可能な限り基本計画に反映し審議会に諮ります。

【藤田委員】

- ・「複合経営体制」の表記を「多角化」や「複合経営」としてはどうか。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「水田のフル活用による米政策の着実な推進と農業者の所得向上につなげる複合経営の強化」に修正します。

【土田会長】

- ・「複合経営体制の強化」という表現はあまり使われていないので、「経営複合化の強化」あるいは「複合経営化の促進」といった表現の方がよいと思う。

(回答)

- ・ご意見と他の委員のご意見を踏まえて、「水田のフル活用による米政策の着実な推進と農業者の所得向上につなげる複合経営の強化」に修正します。

ソ 畜産の振興

【丸田委員】

- ・基本施策の内容には、餌も地域で供給できるような「地域循環型」という言葉があった方が、高収益作物や食品事業者との連携（エコフィードの推進）との整合性も出てきて、よりしっかりとした施策になるように思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、内容を検討し可能な限り基本計画に反映して審議会に諮ります。

【鳴谷委員】

- ・畜産の振興は大いに賛成する。小規模畜産の可能性や優位性にも触れていただきたい。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【小坂委員】

- ・施策の名称を「地域資源を生かした畜産の振興」にしてはどうか。

(回答)

- ・畜産の振興の中には、地域資源を生かすことが含まれているため現行のままとします。

タ 農業生産基盤の整備

- ・意見等なし

チ 農業現場のデジタル化・スマート農業の実践による省力化・生産コスト低減の推進

【大滝正秋委員】

- ・スマート農業実践の基礎となるデジタル技術取得の農業者の育成が必要である。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【土田会長】

- ・基本施策に関連し、今後の議論の中では、デジタル化・スマート農業は、デジタル化・スマート農業の実践が必要とされる経営規模や経営管理システムとなっているか見極め、最終的に費用対効果をしっかりとチェックした上で取り組んでいくことが大切だと感じている。

(回答)

- ・ご高察のとおりですが、あえての記述はしないこととします。

ツ 環境保全型農業の推進

【保坂委員】

- ・もっとバイオマスに深化した考えはないか。

(回答)

- ・基本計画では環境保全型農業を俯瞰的に捉えて記述するため、堆肥の施用や稲わら・もみ殻等に特出した記述はしないこととしますが、バイオマス全体についてのご意見である場合は、農業分野に限った問題ではないことから、上越市第6次総合計画において掲載されていることも踏まえ、今後、検討していきます。

テ 生活環境の整備

【丸田委員】

- ・今回に反映させるのは早いかもしれないが、農村デジタルトランスフォーメーションについて検討しはじめてもよいと思う。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きし、今後検討してまいります。

【小坂委員】

- ・施策の名称を「住みやすい生活環境の整備」にしてはどうか。

(回答)

- ・基本目標に「住みたい・住み続けたい」と示してあるため、修正しないこととします。

ト 中山間地域等直接支払制度、多面的機能支払制度の活用による生活基盤の確保

【相澤委員】

- ・中山間地域等直接支払制度の事務処理は複雑であり、現実として市役所やJAのOBがいなければできない状況である。もっと簡略化または事務代行の必要がある。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【藤田委員】

- ・両制度とも基本的には農業生産基盤を支援するものなので、「生活基盤」の表記を「生産・生活環境」などとしてはどうか。

(回答)

- ・両制度の支援によって、生活が成り立つための基盤が確保される意味であるため、現行のままとします。

ナ 鳥獣被害対策の推進とジビエの利活用の推進

【大滝正秋委員】

- ・有害鳥獣被害対策は、特に中山間地域には喫緊の課題であり、農作物の栽培ができなくなり、農業経営が難しい状況になりつつある。被害を減らすには、個体数を減らすことが必要である。猟友会員の減少もあり、猟友会員の増加支援対策が望まれる。また、市に鳥獣被害防止対策協議会があるが、地域を超えた鳥獣被害対策実施隊の強化が必要である。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【相澤委員】

- ・特にイノシシについては、水田や畑ばかりでなく、今後は人家にも出没する可能性がある。地域住民もワナ等の資格取得など努力しているが、十分ではない。官民一体となった研究が必要である。

(回答)

- ・鳥獣被害防止対策については、上越市鳥獣被害防止対策協議会を立ち上げており、引き続き関係機関と連携し、取り組んでいきます。

【小坂委員】

- ・施策の名称を「鳥獣被害防止対策の推進とジビエの利活用の推進」にしてはどうか。

(回答)

- ・「対策」の前は「克服すべき対象」となることが一般的であり、「実行すべき目標」が入るべきではないため、現状のままとします。

ニ 農業経営や農村の安全・安心な暮らしの実現に向けた防災・減災対策の推進

- ・意見等なし

ヌ 関係人口の創出・拡大や関係の深化を通じた地域の支えとなる人材の裾野の拡大

【丸田委員】

- ・関係人口を増やすのであれば、日々の発信も重要になると考える。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【嶋谷委員】

- ・関係人口を増やすことは重要だが、関係人口ばかりが増え、実際に地域の支えとなる人材（移住者）がなかなか増えないため、関係人口を増やすことから移住につなげていくための提言が必要ではないか。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【小坂委員】

- ・施策の名称を「地域支援人口の創出・拡大や関係の深化を通じた地域の支えとなる人材の裾野の拡大」にしてはどうか。

(回答)

- ・国の基本計画においても、「関係人口の創出・拡大」が一つのキーワードとなっていることから、修正はしないこととします。

ネ 農福連携の推進

- ・意見等なし

ノ 雪室の活用や地域ならではの特産物・特産品の開発・有利販売の促進

【丸田委員】

- ・「雪室」だけに限定するより、「雪の活用」とし、その中の一つ的手段として「雪室」とした方が施策の広がりがあるように思う。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、「雪の活用」に修正します。

【相澤委員】

- ・雪室は雪国特有の方法としてぜひ生かしたい。しかし農産物では単価の高い肉、果物等では採算は合うが、野菜はコスト面において難しいところが多い。JAでは、今ある施設を利用し、雪と冷房施設を兼ね備えたハイブリッド型に取り組んでいる。まだまだ課題は多いが、コスト面を考えれば間違った方向ではない。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きします。

ハ 多様なライフスタイルに応えられる農村の魅力の発信

【嶋谷委員】

- ・基本施策の内容は、具体的な支援体制を示してはどうか。また、実際に実現した半農半Xやデュアルライフを上越市の魅力として発信した方がよいのではないかと。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

③ その他（全体を通しての意見・質問）

- ・全体を通して、意見や質問を委員に求める。

【保坂委員】

- ・上越市は農業を通して、生ゴミ・し尿までも廃棄物ではなく、地域資源として有効に活用し、農地還元を実施、バイオマス資源を軸に食と農業をつなぎ、そしてエネルギーも含めた循環型社会を目指してもらいたい。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きします。

【嶋谷委員】

- ・全体を通して、最近関心を集めている言葉が散見され、広範囲をカバーできる計画と言えるが、上越市の特色が明確ではない気がする。地域内自給率を上げる、人口増加を図るなど、もう少しシンプルにならないか。

(回答)

- ・上越市の特色が明確に示せるよう、計画の素案を作成していきます。

【大滝正秋委員】

- ・コロナ禍にあつて、経済情勢も農業情勢も先の見通しが難しく、厳しい状況にある。今後の状況によっては、見直しの必要性が考えられる。

(回答)

- ・ご意見としてお聞きします。

【清水委員】

- ・収入保険は、自然災害や価格下落等の農業経営における様々なリスクに対応し、農業経営の安定化を図るために有効な手段であることから、収入保険の普及促進の追記を検討願いたい。

(回答)

- ・ご意見を踏まえて、基本計画に反映し審議会に諮ります。

【土田会長】

- ・他産業の定年退職者の帰農や新規就農等を促進・支援する取組について、記述してもよいと思った。

(回答)

- ・他産業の定年退職者の帰農や新規就農の促進・支援等は、基本施策の内容で具体的に記述します。

【土田会長】

- ・前基本計画で施策に使用していたキーワードで、新たな基本計画の施策の案に引き継がれていないキーワードについては、ある程度目標を実現したということか。あるいは似たような記述が具体的な施策内容に含まれているため、施策のキーワードとして使用していないということか。

(回答)

- ・国の基本計画及び当市の現状と課題を踏まえ、今の当市にふさわしいキーワードを重要視して、基本施策を設定しています。ご指摘の基本施策から外れたキーワードについては、新たに設定した基本施策の内容に含めて記述するようにしています。

【土田会長】

- ・新たな基本計画では、各基本目標につき、基本施策を4項目または5項目になるよう設定しているのか。

(回答)

- ・国の基本計画を踏まえながら、基本施策については、分かりやすく簡潔に明示できるよう5項目以内に設定しました。

9 問合せ先

農林水産部農政課農業総務係 TEL : 025-526-5111 (内線 1738)

E-mail : nousei@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。